

International Student Center News

金沢大学留学生センター ニュース



vol. 2

March 1999



留学生センター長
大橋 信彦

留学生の皆さんへ

昨年4月以來、留学生センター長として、留学生と深く関わることとなりました。縁あって釜沢大学留学生となられた方が実り多い留学生生活を送れるようにと、留学生センターの先生方や学生、留学生部スタッフと知恵を出し合いながら施策を進めています。

私どもは、それぞれに困難を克服して留学を実現されたであろうことの厳さに思いを致し、その高い志に励んでゆきたいと努めております。

留学生の皆さんには、それぞれの専門の学習・研究に懸命に励んでいただきたく思いますが、それと同時に、日本という国について、日本人について、理解を深めていただき、国際交流の架け橋となっていただきたいと願っています。釜沢市内の小・中学校が主催している国際化教育や市長府が行っているさまざまな暮らしにも積極的に参加するなど身近な活動を通して、国際交流の実をあげていただきたいと考えます。釜沢は、長崎県、釜沢、陶芸、漆などに代表される伝統文化、湖沼をのせた家々や入り組んだ路地裏、あるいはここに住む人々の自らの生活のなかに日本の原風景をとどめている代表的な城下町で、是非この町のなかに「この国、日本」を感じ取っていただきたいと考えます。人はそれぞれに山田を持ち、宗教を持ち、生活習慣を有しているので、互いの国家、文化、社会等を尊重しつつ相互理解を深めることは、言うほどに、たやすくはありません。それであればこそ、留学生の皆さんに期待するところは大きいと云えます。

日本のさまざまな事情について深く知るためには、日本語と言う言葉に堪能することが重要であるという観点から、留学生センターにはさまざまなカリキュラムが用意されています。さらに、日本の生活習慣や文化について、より深く理解していただくために、例えば、日本語日本文化というコースが用意されています。留学生の皆さんには選んで受講くださることを望んでいます。

これから祖国で活躍され、あるいは、世界に羽ばたかれる皆さんのために、釜沢大学での留学経験が有意義なものとなるようにと、心して留学生事業に取り組んでいるところでありますが、留学生センターはさまざまな問題も抱えています。とりわけ、日本語教育のための専門教室を持たないことは、日本語教育を円滑に進めてゆく上で大きな支障となっています。一日も早く留学生のための教育環境が整うように、関係各位のご協力を切にお願ひ致したく存じます。

このセンターニュースは、留学生と本学の学生・教職員を結ぶ、いわば、小さな架け橋ですが、互いに情報を交換し理解を深め合い大きな交流の輪が広がることを願っています。そのための、建設的なご意見をお寄せいただきたく存じます。



留学生専門委員 言語文化学部
プログラム小委員会委員長

中山 諭 二

金沢大学短期留学プログラム (KUSEP) の開設にあたって

1. KUSEPの目的

日本で学ぶ意義は、日本の文化、風土習慣、日本人の考え方を知ることにあります。とりわけ戦災にあわなかった加賀百万石の史跡豊かな金沢で学ぶならば、地域に根ざした日本文化、伝統工芸を通して日本を理解し、また、そこに実際に住んで肌で感じながら地域の伝統文化から自然までを包括的に理解することができます。さらに、総合大学である金沢大学で学ぶ意義は、いろいろな専門分野の留学生が集まり、留学生同士、さらには、日本人学生との交流を通して幅広く理解を深めることです。日本人学生にとっていろいろな国や専門分野の留学生と交流することはより豊かな国際的視野を身につけるいい機会です。

2. カリキュラム編成

ここでは、カリキュラム編成の方針を簡単に説明します。

・Compulsory：日本語

日本語は「日本を学ぶ」ために必須であると考えています。単に、コミュニケーションの手段としてだけでなく、日本語を通して日本人の習慣、考え方まで知ることができます。また、短期留学生の大半が日本語の勉強を希望していることも考慮して「日本語」を必修科目にしました。具体的な内容については留学センターでいろいろと工夫し、留学生の日本語能力に応じて初級から高いレベルまで勉強できるようにしています。

・Semi-Compulsory：教養的一般科目

留学生の専門分野にかかわらず、日本や北陸地域について幅広く勉強できる科目です。現在、年間で計4科目が履修されています。内容は、日本の社会と文化、日本人の考え方、加賀・能登地方の風土、自然などがあり、フィールドワークも取り入れられ、多くの留学生が楽しく学べるようになっています。この科目は日本語と共にKUSEPのなかでも重要な科目であり、4科目のうち2科目以上を修得することが必要です。

・Elective：専門科目

留学生の専門分野が多いこと、同じ分野でも学年によって勉強した内容が異なることを考慮して、留学生の希望を満たす専門科目をどのように開講するか？これは難しい問題ですが、留学生の希望にあわせて授業内容をアレンジする形式の科目もあり、できるだけ留学生の希望を満たすように努力しています。しかし、全ての専門分野にバランスよく開講されているとは言えず、さらに改良する必要があります。他に、自主研究(Independent Research)があり、ある課題について留学生が自主的に研究することができます。先生の指導を受けることもできます。

3. 1998年10月からスタートして

日本語は全員が履修、Semi-Compulsory科目は平均16人が履修、学生の平均履修科目は5科目となっており、バランスのとれた履修状況になっています。留学生も楽しく授業に参加しています。しかし、専門科目で少し偏りがあること、学生の留学目的がKUSEPの趣旨にあっていない場合には出席率が悪くなるという問題も出ています。一方、KUSEPも問題点を踏まえ、また、留学生の意見も参考にして見直しを行っていく必要があります。

1年間で20単位以上を履修した学生にはKUSEPの修了証書が発行されます。これを一つの目標として留学生が1年間で有意義に過ごし、KUSEPで成長を上げることが期待されます。

りゅうがく せい いち ねん かん
留学生の一年間

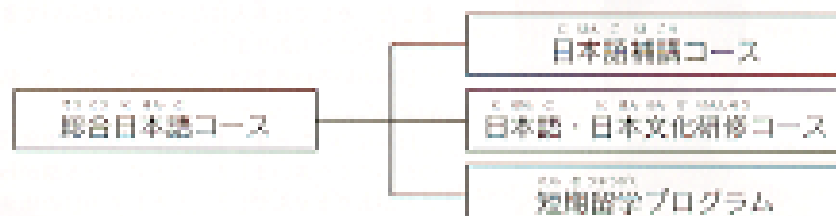
どりょく たっせい かん
努力と達成感



は こ う か 「補講が変わった！」

太 田 亨
(総合日本語コースコーディネーター)

1 総合日本語コースについて



今までの「日本語補講」が「総合日本語コース」に変わりました。

「総合日本語コース」とは、金沢大学の学部や大学院で学ぶ留学生のための「日本語補講コース」と、留学生センターの「日本語・日本文化研修コース」、また1998年10月から始まった「金沢大学短期留学プログラム (KUSEP)」の3つのコースがいっしょになった日本語コースです。様々な日本語学習のニーズにこたえるために、必修 (compulsory / required) クラスと選択 (optional) クラスをつくりました。

2 カリキュラムについて

必修クラスは日本語クラスです。そして選択クラスは、漢字クラスと技能別クラスの2つです。

日本語クラスは初級・中級・上級、それぞれ2レベルずつ、合計6つのレベルからなっています。コースの目的は、大学生活で使うための日本語力を伸ばすことです。最終目標は、日本語能力試験の2級合格くらいの日本語力をつけることです。

漢字クラスは初級で249字、中級で251字、上級で240字の合計740字を学びます。

技能別クラスは中級と上級向けです。中級では読解、作文、講義の聴解の3つ、また上級ではレポート作成と口頭発表技術の2つがあります。

なお、所屬キャンパスではKUSEPのカリキュラムにあわせて、授業を午前中に行っています。

3 だれがこのコースを受けられるのか

総合日本語コースは次の人が受けられます。

金沢大学の留学生 (学部学生、大学院生、研究生、特別聴講生など) で、日本語が母語ではなく、また日本語が中級以下 (日本語能力試験「2級」以下) の人

ただし、クラスにまだ空きがあるときは、次のような順でその他の人も受け入れることがあります。

1) 金沢大学の外国人客員聴講員、2) 金沢大学の外国人教員、3) その他、留学生センター長が特に認めた人

問い合わせ先：太田 亨 E-mail : akiruo@kenroku.kanazawa-u.ac.jp

日本に来て思ったこと



ビクトリア
(ミャンマー)

私はきょうねんの10月2日に日本へつきました。日本へ来るまえに、日本はきれいだったんだよこうだよなと思ってたんですけど、きれいな国、きれいだったことがありました。そして日本人はたいへんはたらいてきそくをまもる人、しんせつな人、と聞いたこともありました。

日本のいろいろないいことを聞いたので、私は日本へぜひ行きたいとおもっていました。

日本についたとき、もんぶしょうの人や金沢大学の人が、いろいろなことをていつてくれました。だから、日本語がわからないことしか、ほかの何だったことがありませんでした。しかもその日の夜うがた、大学のしょくどうへ行ってばんごはんを食べました。ちよつと高いとおもってびっくりしました。でもあとほかの店へ行って、どこでもなんでも高いということがわかった。高くても買わなければならないので、いろいろな食べ物を買いました。

どこでも、たとえば、大学や、みちや、がっこうなどはとてもきれいに整えられました。それはとてもいいこととおもって、だい好きでした。でも大学からジャスコまで歩いて行った、そのときは、ほどうにおとしたごみが整えられました。みんなきれいにしているのに、だれがそのまたないことをするかとかんがえて、きらいでした。

日本では、たくさんのおとこにじどうきかいをつかっているのがあります。私がまだ見たことがないじどうきかいもたくさんあるとおもっています。それはとてもいいことです。でも、人かじごとをさかすときは、必ずかしいかもしれないとおもっています。

それから、日本人はじかんをおくれないうにしていることも見られました。たいへんはたらいている人ということもわかりました。また、じかんをむだにしないことも見られました。たとえばバスをまわっているとき、車をよんでいる人をおく見られました。ほかの人にもあまりはなしません。それはいいけど、人びとのかんけいは、ちよつとないことになるかもしれません。

先生や日本人学生やホームステイのかぞくが、私たちにしんせつにしてくださいました。はじめてホームステイに行くとき、まだ日本語があまり話せませんでしたが、かぞくのみなさんがじしよでしらべて私に日本語をおしえてくれました。そして私たちがいるものをかいにつれていってくださいました。それからだんだんきわんになるときも、あたたいふくをくださいました。同じころみんなのの人たちも、習字会をパーティーにしようたり、山田町へスキーにひいていってくださいたりしました。スキーからかえるとき、山田町の人が私たちにお米をプレゼントにくださいました。それを見て、日本人はほんとうにしんせつだとわかりました。

パーティーのじかんがするとき、かたづけるときも、若い人と年上の人、先生と学生がいっしょにしているのが見られました。みんながひとりずつのせきにんをはたしているの、しごとがはやくおわります。パーティーが終わるとき、そのへをはずるかたづいてきれいになりました。

日本人はたいへんはたらいている人です。自分のあとしごとをやめても、ほかのことをばんきようして、それをやっている人もいます。自分の人でもまだばんきようしています。それはとてもいいことです。年上の人になるのにはたらいているので、ばんきでじゆみょうがなかりです。

わがしの日本人はしんちようからちよつとみじかりのに、いまの日本人はせがたかくなるそうです。だから、いまの日本人はしんちようがたかくなるようにどんなものを食べているかについてならいたいです。

日本はせんしん国なのにわがしのこともまだやっている国です。たとえばおきとか、のうとか、ぶんらくにんぎょうじようりです。いくらせんしん国になってもわがしのぶんがないうままでもまっているので、いいことです。

ビクトリアさんは、訓練コースの第2期生で、今年の10月に日本へ来ました。そのときは、日本語の単語はほとんどゼロでした。でも1日後の今、こんな文章が書けるようになりました。前らかな顔の笑顔は直し、また、笑顔の顔で、一部は言葉を覚えていただきましたが、そのほかは原文のままです。――編集者――

かなざわ　さん　か　こくさいてき　かつどう
「金沢で参加した国際的な活動について」



パリス・インタウィーサク
(タイ)

日本人が僕のように自分の国のことが第一だと考えていると、私は日本に来る前にずっと思っていました。すなわち、英語で言うと、「Nationalism」です。しかし、日本に来てからそうではないと思います。なぜなら、現在の日本人が外国の文化や言葉などに興味を持っていることが分かってきました。東京や他の所でどんな状況になっているか分かりませんが、金沢は大きくない町ですが、国際的な活動がひんびんに行われることが見られました。金沢で参加した国際的な活動についてお話しします。

まず第一は、学校での活動です。私は2回小学校へ行きましたが、中学校へ3回も行きました。学校では、私はタイの国の紹介をしたり学生と一緒にゲームをやったりしました。学生たちがタイのことについてたくさんの質問を聞いてくれてうれしかったです。

それに、この間、志賀町国際交流協会設立記念日のため、私はパネリストとしてパネルディスカッションに参加しました。そのディスカッションでは、4人の外国人に日本に対する意見や感想、例えば、日本の良い点、悪点、戸惑ったこと、日本から得たこと、学んだこと、そして国際人として日本人に望むことなどのことを話させました。日本人たちがよく私たちの話を聞いてくれて私たちに好感を与えてくれたと思います。

外国の料理も日本人の関心があることのひとつのようです。私たちが、タイ人はよく日本人に呼ばれてタイ料理を作るのです。

しかも、外国人が日本文化を知るための活動もたくさん行われます。特に金沢市国際交流財団 IK・J・C・F の活動です。例えば、成人の日には外国人が金沢市の成人式に参加できたり、もちつきや着物体験するチャンスもあったり、その上、日本風の生活様式が分かるために「HOMIE VISIT」のプログラムも行われて面白かったです。

私は金沢に来て、約5ヶ月たちます。以上話したことは私にとって好印象にもタイでやるチャンスがないことで良い経験にもなりました。東京でもたぶんそういう体験をすることが少ないかもしれません。私の友達が東京で留学していますが、私が金沢で参加したいろいろな活動に参加したことは一度もないと言っていたのです。現在、日本人が結婚外国の文化などに興味があるし、思ったよりも日本滞在外国人との交流会が多いようなため、「国際ブーム」と言えると思います。

パリスさんは、タイの大学で日本語を専攻して、3年になります。去年の10月に日本へ来て、日本語・日本文化研修コースで勉強しています。地域の行事に興味を持ってよく参加してくれています。

りゅうがくせい おし いぶん か まな し せい
留学生に教えられる『異文化を学ぶ姿勢』



留学生と釜沢市民を結ぶ田上の会代表
中川外司



「異文化を学ぶ姿勢」の著者
中川外司

家族と離れて釜沢で学ぶ外国人留学生にたとえ一時でも家庭の
園樂を味わって貰えたらの思いから三年前に始めたショート
ステイの経験は、わずかなお世話には代えられない多くのこ
とを私に教えてくれています。

国や地域を問わずどの留学生も真面目で自学心に燃えている
のには常に感心させられますが、それ以上の驚きは、留学生の
「異文化を積極的に学ぼうという強い意欲とその適応の巧み
さ」です。自分が若いときにこんな経験をしたとしても、とて
もこんなに意欲的な行動ができなかったと恥じる勇いです。そ
して彼らと同じように海外で学んでいる日本の若者がこのよう
な「異文化に対する適応力」を身につけているのだろうか、といさ
さか気掛かりになります。

ショートステイの輪を少しでも広げよう多くの人が「彼ら
と気軽にお付き合いをしながら自らも学び、さらにはたくまし
い日本の若者を育てる一助になれば」と自ら思い描いています。

留学生、春夏秋冬



島 弘子
留学生センター非常勤講師

答：

日本人学生の1年は、4月初旬にスタートするが、留学生のそれは来日時刻の関係で1〜2週間遅く始まる。したがって、来日直後の間に合わない留学生も多い。プレースメント・テストから始まる日本語コースのあわただしさも、ゴールデンウィーク後の5月半ばにはおさまリ、春の暑さがでてくる。そして、日本語クラスは、ピンと張りつめた緊張感の中に、二輪独特の和やかさが漂うようになる。

梅田：

北海道を離れる地域では、髪を洗える前に1か月ほど「断髪」の季節がある。家族では例年7月20日頃まで続くが、留学生の断髪がなんとなくさえないかったり、「お断の調子が悪い」と訴える学生が一人二人でてくるのも、このころ。事情を向くと断髪の武べ戦しを、髪前断髪せずに白にした、という。梅田ときは、衣パ物が簡単にすいので、くれぐれも衣中品にご用心を。

真：

梅田が向けたら、何月の花火大会が待っている。しかし…留学生が関るのは、日本の暑し暑さ。日本語の授業も徐々に暑さを増して、「さあ！もう一息」というところから急に暑くなる。暑さに慣れているはずの国の学生も、日本の暑し暑さは、暑熱とか、おかげで、連夜の寝苦しさをもたせて、朝の授業のつらそうなこと。そういえば、「文芸会館で生まれ初めて断髪を見て、とてもびっくりした」とアラビア語圏の留学生が言ってきたのも、初夏だった。

秋：

秋に来自る留学生の中には、日本語の流暢な日本語日本文化研修生も多く、暑とはまたちがった暑熱気となる。総合コースの留学生の中には、伝統的なクラブ（音楽道や剣道、茶道など）に熱心な人々もいる。あこがれの剣道道に入道した来日の女子留学生が、自覚に満足で練習があり、その暑しさに慣れてしまった、と言っていたが、しっかの剣道試合にも出場し、日本語もうまくなって、帰国した。

冬：

暑といえば、暑。初めて見る暑に感動し、流石と賞を向に送る中国系の留学生もいれば、同教センターの玄関で「暑かき」を予言する留学生もいる。しかし、当然暑熱の暑さに戸惑う学生もいる。12月のある日のこと。

日本語教師「断髪が暖かくなったから、少し断髪温度を下げましょうか」
留学生「いいえ、いいえ、まだ寒いんです」

設定温度30度を横目で見、暖房で断髪を暑くしたまま、教師は授業を続けた。でも、ご安心を。1シーズンが過ぎ、1、2度断髪を乗り越えたあとは、いつのまにか暑さに慣れてきているようだ。

1年は長いようで短い。暑さあり、寒し暑さあり、そして断学のストレスもあり、一というわけが留学生のみなさんは、いろいろたいへんでしょうが、ぜひ積極的に何にでも挑戦してみてください。そういうみなさんを断力ながら心より応援しています。

りゅうがくせい ひととき
留学生との一時



大橋年彦

陶芸家

ロチエスター工科大学客員教授

私は金沢大学で数年前から加賀の工芸の歴史、あるいは都市論という経済学において日本文化を創ってきた糸道や工芸を検証するといった、いくつかの講義を行ってきました。また昨年、金沢大学の留学生を対象に糸道や工芸の関わりを彼らの視点にそって解説する授業も試みてきました。

今回、留学生センターとともに新たなクラスを創設しました。このプログラムは留学生が陶芸を実際に体験することで日本文化、そして金沢の風土といったものを少しでも理解してもらいたいという願いから生まれたものであると思います。

私の工房は金沢郊外にあり、りんご畑に囲まれたとても制作に適した環境下にあります。そして父である十代までおよそ330年間、加賀藩の保護のもとに大橋家は糸道のための蒸餾などをずっと作り続けてきました。またその間、関係者以外の道も工房へ招かないというポリシーを置いてきた家でもありました。ところが私のかつての留学経験や海外での創作活動からなのか、まず私の1番弟子は女性、そして私が教壇を勤めるロチエスター工科大学、またベトナムの工芸大学などから、常に数人が留学生として滞在しており、工房は大きく変わりました。

そんな工房を彼らは訪ねてきました。5回のセッションから、制作、削り、磨き、窯焚きというプロセスのなかで、初めて土を触った学生がほとんどでありました。降りしきる雪を家から眺めながら彼らは懸命に創作をしたと思います。そして最後のセッションは全員で窯を焚きました。色がつき、まだ熱い器を眺めている彼らの美しい眼は世界中からのものでした。

工房にはいくつかの花が咲き始め、そして風はわれわれに優しく吹くようになりました。彼らの訪ねたあの時の雪は消えてしまいましたが、私には同じ場所に残像として重なりあっています。季節はいつも訪ねてきます。しかし、あの時は一度だけです。互いに別れてしまうことは寂しいことですが、そのような時を共に彼らとすごせたことを幸せに思っています。

A Taste of Tea Ceremony



Lisa McLachlan
(Australia)

Since we arrived in Kanazawa in early October, the exchange students of the KUSEP program at Kanazawa University have been devoting an afternoon each week to extra-curricular activities about Japanese culture. This semester, we have been learning about the tea ceremony, and all the different elements which combine to make it a unique experience.

To start with, we had the tea ceremony performed for us at Shokusan, which was great. The sensei explained the ceremony to us step by step, and afterwards we got a chance to make the tea ourselves. The tea house itself was very beautiful, and the tea ceremony very interesting-although hard on the legs!

The next step was to learn about all the different elements of the ceremony, the setting, the utensils, *chawan* and *chawan*... To learn about *chawan*, we went to Nakanuma-tei, and spent an afternoon first learning about *chawan*, the various schools and the principles and traditions behind them. Then we were given flowers and branches, and arranged them ourselves (with some help and correction from the sensei). Again, a beautiful setting, and an interesting lesson.

After this, our next trip was to the Mochizuki candy factory, to see the production of various types of Japanese sweet. At the time we went, in December, the factory was very busy making sweets for the New Year. It was fascinating to see the various stages of production, the different types of *daifuku* and the way they are made and of course to have the chance to sample some for ourselves!

For the next part of our cultural activities, we were to make our own tea bowl, under the instruction of Ohi Toshiro, the 11th generation of the Ohi family who have developed their own style of pottery in Kanazawa. The first afternoon, Ohi-sensei talked to us about tea, explaining his concept of the tea ceremony. The next week, we went to his studio, had the tea ceremony performed for us and had a tour of the studio, which was interesting. Then, to work! We shaped our bowls out of clay by hand, and it is not as easy as the sensei made it look! However, we persevered, while the sensei and some of his students spoke to us about tea, pottery and the tea ceremony, and by the end of the afternoon had produced at least one acceptable bowl each-as there were no rules as to the style of the tea bowls, there was a lot of variety to be seen. For our next session, our bowls had been fired once and were ready to be glazed, in amber or white, and fired again.

During this semester we have learned a lot about various aspects of the tea ceremony, and the elements which make it up, and it has been a lot of fun. Now all that remains is to finish our bowls and perform the tea ceremony for ourselves-tanoshimiishiteimasu!!

(Lisa McLachlan, an Asian Studies major from The Australian National University, is spending a year at Kanazawa University as a member of the new KUSEP Program.)

ボランティア・チューターの会に参加して



滝原 由香
法卒修・3年

私は初めて、ボランティア・チューターの会に参加しました。昨年10月の頃は、英語はまるでわからず、留学生のみなさんの日本語もうまなくて、何を話したらいいかわかりませんでした。4ヶ月後、私たちは日本語でいるんなことを話せる仲間になることができました。留学生のみなさんはたった4ヶ月で日本語をマスターしてしまったので、とても驚いています。夢中で日本語によかったと思います。

私たちは「Show & Tell」の形式で、留学生は自分の国の文化を、日本人学生は日本文化を、お互いに紹介しました。留学生のみなさんの国のことは、中学や高校で習ったかと思っていましたが、実際にその国に住む人から聞いてみて、日本とはずいぶん違ってとても興味深いと思いました。日本人学生は、日本食や名物を紹介したり、留学生のみなさんと「おもてなし」を取ったり、折り紙を折ったりしました。ふだん当たり前に思っていることを、それを知らない相手に伝えることが、どんなに難しかったかを学ぶことができました。もちろん言葉だけに頼ることはできません。相手に自分の伝えたいことを分かってもらうためには、相手の目を見て、言葉を聞いて語りかけなければいけません。留学生のみなさんはいつも、私の話す下手な英語混じりの説明を根気よく聞いて下さいました。ふだん日本人同士で話すときには、ずいぶん言葉に頼ってしまっているということを強く感じました。留学生の方々に対してだけでなく、ふだんのコミュニケーションでも、その態度を決して忘れてはいけな

と思います。ボランティア・チューターの会には、3つの目的があると思います。1つめは、文化の違いを知ること、2つめは留学生が日本語で話すチャンスをつくること、3つめは日本人学生が日本語教育を体験できること。私は始め、「ちょっとおもしろそう」という程度の気持ちで参加していたのですが、途中で米国でのスタールインターンに参加することがあったので、アメリカの小・中学校で日本語（日本文化）の授業を受け持つためのレッスンとして、この会に参加させていただきました。実際に、留学生の皆さんに「そろばん」を紹介しました。発表の前後で、先生から特に日本語の使い方について具体的なアドバイスをいただき、大変勉強になりました。できるだけ簡潔な言葉で言い表すトレーニングをしなければならなかったと思います。発表の進め方においても、簡単にできると思っていたのにやってみたら案外時間がかかってしまうことなどもあり、貴重な経験ができたと思います。教壇に立つ機会は今なかなか持てないので、これからはこのチャンスを生かしていきたいです。

留学生の皆さんとの活動の他にも、定期的に日本人学生だけのミーティングを行い、「こうしたらもっと良くなる」という点についてアイデアを出し合いました。「出身国や学部が分かった方が話がわかる」という意見には、あっそく有利「ブライタラバさの!!」交換をしました。私は、文化の紹介の他にも、国際的な問題（格差・経済・環境問題や歴史問題、最近のトピックなど）について、それぞれの国の立場を代表して意見を述べあったり、留学生の皆さんがどんな専門科目を学んでいるのかを聞く機会が持てたらいいと思います。言葉がうまく通じないうちは難しいかも知れませんが、私たちはそれぞれ専門科目を学ぶ大学生なのだから、自分たちの研究のためにも、良いチャンスだと思います。

ボランティア・チューターの会は、学生による日本語教育と文化交流の場として、さらに異国に興味を持つ日本人学生のためにも、どんどん面白くなっていくと思います。先生方の熱心なご指導のもと、国境を越えて、仲間が集まる限り…。

留学生の一年間

笑顔と思い出



資格外活動許可申請等の取扱いが変更される

留学生の皆さんがアルバイトをしようとする時は、資格外活動の許可を受けなければなりません。

この資格外活動の許可申請等の取扱いが、平成30年9月1日から次のように変更されました。

いままでは、留学生の皆さん個人が申請手続きをしていましたが、原則として大学等が名古屋入国管理局金沢出張所に申請することになりました。

大学は留学生の皆さんの分をまとめて申請手続きを行い、申請内容に問題がなければ、入国管理局から活動許可書の交付を受け、皆さんに渡すこととなります。

■ 留学生の皆さんは、次の書類等を学部等の留学生担当係へ提出してください。

「提出書類」

①資格外活動許可申請書、②外国人登録証明書の写真、③パスポートの提示

■ 活動許可される時間は、次のとおりです。

- ①大学等の正規生・・・1週28時間以内
- ②非正規生（研究生、聴講生等）・・・1週14時間以内
- ③夏季、冬季及び春季の休業期間・・・1日8時間以内

■ 風俗営業等の場所でのアルバイトは、禁止されています。

（キャバレー、カフェー、ナイトクラブ、ダンスホール、客の接待をして飲酒させるバー、パチンコ屋、マージャン店等）

その他、不明なことは学部等の留学生担当係または留学生課へ問い合わせてください。

金沢市 不用品交換ダイヤル

☆衣類や雑貨製品などがほしい人に、それを「あげたい」と思っている人を紹介します。

☆衣類や雑貨製品などが無くなった人に、それが「ほしい」と思っている人を紹介します。

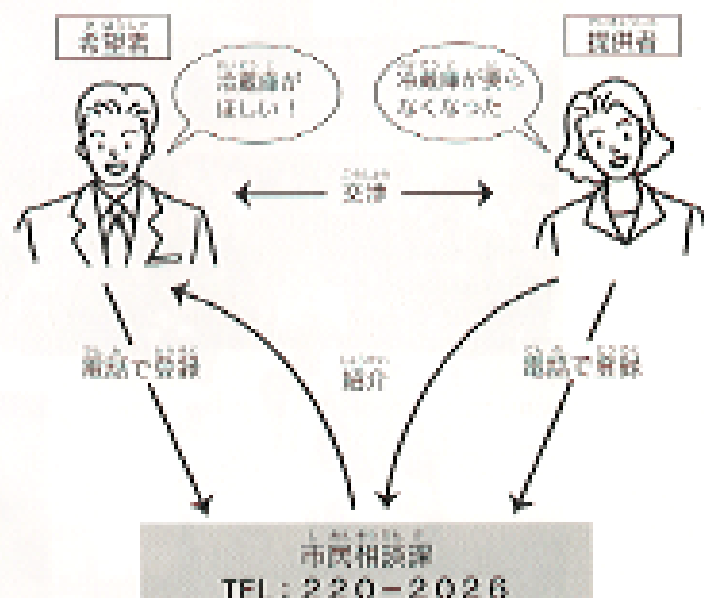
Ex) ①冷蔵庫がほしい場合

①金沢市の市民相談室（TEL：220-2026）にTELする。

②冷蔵庫をあげたいと思っている人が登録されている場合、その人を紹介してもらえる。

③その人と話す。

④冷蔵庫をもらう。



◆注意!!◆衣料品、食品、ペットは、扱っていません。

留学生住宅総合補償制度が創設

留学生の皆さんがアパート等に入居する時に必要とされる、保証人を探す困難を解消し、保証人になっていただく人の精神的・経済的援助を行い、保証人を引き受けやすい環境を作り、留学生の皆さんが安心して就学に励むための制度として留学生センターによる「留学生住宅総合補償制度」が、平成11年3月1日から開始されました。

留学生の皆さんがこの総合補償制度に加入することにより、皆さん自身の補償はもちろん、保証人への補償も含まれていますので、指導してくださる先生方にも、安心して保証人をお願いすることができます。

この総合補償制度の内容は、次のとおりです。

■ 留学生の皆さんの保険料等の負担金

① 1年間加入の場合・・・7,500円

② 2年間加入の場合・・・14,000円

(私立留学生は、①又は②の支払後、5,000円が補助されます。)

■ 補償の範囲

「留学生への補償」

① 万一、失火等により家上に賠償しなければならないとき。

② 日常生活において、他人にケガをさせたり、水漏れにより他人の財産物をこわしたとき。

③ 火災、破裂、爆発等で家財に損害を受けたとき。

「保証人への補償」

何らかの事由で、家主さんに対する支払いが滞るなどして、その費用を保証人が代わりに支払ったとき。

詳しいことは、学務等の留学生担当係または留学生課へお問い合わせください。

外国人留学生支援のためのフリーマーケット開催の案内

聖光大学国際交流団体K.I.S.S.は、国際交流を目的として組織されたサークルです。主に、白茅留学協会のレポートや日本文化との触れ合い、地域と留学生との交流会などを行い、異文化交流を行っています。今年1学期と併しく、地域との交流を兼ねた、フリーマーケットを行います。

留学生に対して格好に提供できる物品の提供を県内の国際交流団体、経済団体、および市民、市民団体に広く呼びかけ、協力を得ると共に、交流事業の発展を呼びかけることとなりました。

なお、K.I.S.S.では、売上による収益は必要経費を除き、寄付することとしています。

日 時：4月11日(日) 午後1時から

場 所：石川県国交国際交流館・長野県国際交流館・長野市若林町10番4

販売品目：タオル、食器類などの日用品類、陶器製品、自転車など

開催当日も含め、物産を販売していますので、なにを提供していただけるのであれば、

K.I.S.S.代表 西崎 光貴

Tel, Fax: 076-224-5177

E-mail: shigemrok@ol.comまでお問い合わせします。

Flea Market for Exchange Students

In order to promote international exchange, the Kanazawa University Student Station (K. I. S. S.) is sponsoring a flea market. In addition to selling household items (cooking utensils, etc.), there will also be some electronic goods being sold for reasonable prices. Besides this flea market, K. I. S. S. is planning various events to give international students opportunities to experience Japanese culture.

When: 4/11(Sunday) from 1:00p. m.

Where: Kanazawa International House, 76-4, Wakanatsu-machi Kanazawa-shi.

Those who are interested, please contact Shigemaki Masaka

at 076) 224-5177.

新任スタッフ紹介



加藤 直 (留学生課)

10年4月から、留学生課の一員に加わり、国際交流及び留学生活動そのものの発展をしています。外国語は話せませんが、見かけたら声をかけてください。



太田 亨 (留学生センター)

こんにちは！ 1998年4月から釜沢大学留学生センターで働くことになりました。昔年(1998)年秋学期から総合白百合コースのコーディネーターを務めています。限られた時間ですべての白いコースを履修したいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



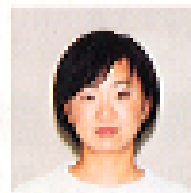
田代 知 (留学生センター)

私も昔、留学していたことがあるので、留学生の皆さんとの交流はよくわかります。皆さんに「楽しかった。白百合に来てよかった！」と言ってもらえたら、とても幸せです。そう言ってもらえる教師を目指します。



津川 マイケル (留学生センター)

初めまして、津川マイケルと申します。本学で勉強する留学生に有意義な学生生活を送ってもらおうよう、頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



西村 幸希子 (留学生課)

釜沢に来た留学生が、毎日安心して生活できるようにサポートしたいと思っています。釜沢大学と、釜沢の文化、釜沢での生活が留学生にとって良い経験と思い出になることを願いながら、いつも笑顔で接することを心がけています。



ルチラ パリパワダナ (留学生センター)

皆さんにとって釜沢大学での留学生生活が楽しいものとなるように万の機材手助けをさせていただきたいと思っています。皆さんと共に成長していける仲間になれたらと願っています。

釜沢大学留学生センターニュース 第2号

1999年3月31日発行

発行 釜沢大学留学生センター

〒920-1192 金沢石角町

TEL 0761 261-5188

FAX 0761 234-4012